

ユニット名:さくら・もみじ

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンの気くばり・目くばり・心配りを掲示し心掛けている	「気くばり・目くばり・心くばり」のスローガンを各ユニットの目につき易い所に掲示して、共有と実践に繋げている。また、新入職員に対しては管理者が理念、スローガンに沿った取組について説明している。家族には利用契約時に理念、スローガンを説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加している。	自治会費を納め、行事に参加することにより、地域の一員として活動している。コロナ禍で殆どの行事が中止となっていたが、昨年より地域の秋祭りが再開した。獅子舞が来訪して、舞を披露して頂いた。来年は「どんど焼き」の見学に出掛ける予定である。各種ボランティアの来訪も再開していないが、コロナの感染状況を見ながら再開したい意向を持っている。そうした中、長野社会福祉介護専門学校の生徒数名が来訪して、介護全般の実習に取り組んだ。また、コロナ前に行っていた地域の幼稚園との交流活動も再開したい意向を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の積極的な受け入れを行い、認知症の人の理解や支援の方法をかかわりの中から学んでいただいています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域の方・行政の担当者・家族等の参加による運営推進会議を行っている。活動状況の報告・意見交換を行っている。	運営推進会議は、コロナ禍中は書面での開催だったが、新型コロナ5類への移行を受けて、昨年5月より栗田区区长、芹田区民生児童委員長、栗田区民生委員、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が出席して2ヶ月に1回開催している。利用者状況、事故ヒヤリハット報告、活動状況報告、サービスへの評価及び要望・助言等を頂きサービスの向上に繋げている。なお、年2回は隣接する法人内の他グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。また、市のあんしん相談員の来訪が再開されれば運営推進会議への出席を依頼したいと思っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所の状況を報告し意見を頂いている。	市高齢者活躍支援課には事故ヒヤリハット報告等を速やかに行っている。介護認定更新調査は市の調査員が来訪しケアマネージャーが対応している。市のあんしん相談員の来訪は令和7年1月からの再開が予定されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーの活用をしながら転倒リスクに備えて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	方針として拘束のない支援に取り組んでいる。帰宅願望の有る利用者が若干名いるが、職員が優しく寄り添いお話を聞きして納得して頂いている。また、転倒、落下危険のある利用者数名には家族と相談の上で、人感センサーを使用している。使用状況を1ヶ月に1回話し合っ		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声かけの仕方・言葉使い等が職員間でばらつきがある為、研修等で学んでもらいながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解し、必要なら活用していくが職員間で制度について話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項の説明を行い質問に答えながら丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対面面会時に現在の様子を伝えたり、受診後の結果をLINE等で報告し、連絡を取りながら意見を頂いている。	家族の面会は、現在、事前に連絡を頂いた上で、相談室か3階の多目的ホールで行っている。家族と外食に出掛けたり、家に戻り昼食を楽しまれる方も数名いる。ホームでは今年から家族との外出も推奨している。ホームでの生活の様子は2ヶ月に1回発行している「こもれ陽栗田2号館だより」でお知らせしている。、合わせて、スマートフォンを有効活用して日々の生活の様子や検診の結果等を連絡している。コロナ前に行っていた家族会も感染状況を見ながら再開したい意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度ユニット会議を行い管理者も参加し意見の確認をしている。 1ヶ月に1回リーダークラスの会議を行っている。	2ヶ月に1回職員会議とユニット会議を開いて、職員の意見を吸い上げている。職員会議では法人からの連絡、各種研修、意見交換等を行い、ユニット会議では利用者個々のカンファレンスを中心に日々の支援について話し合っている。また、毎月ユニットリーダー、ケアマネジャー、管理者によるリーダー会議を行っており、利用者の様子、業務内容の確認等を行っている。更に、職員は年2回、目標に対して自己評価を行い、賞与の時期に合わせて管理者と個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や悩みや人間関係を把握するよう努めている。 年2回人事考課を行い向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修等に参加し持ち帰った課題をユニット職員で取り組んで学びの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修等に参加し同業者と関りが持てる機会を作っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人に会い心身の状態や思いに向き合いながら聞き取った内容を職員と共有している。入居後は、利用者さんの様子を見ながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前と契約時に家族の意向を聞き、事業所としての対応を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることはその場で対応し状況を見ながら支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が体操を一緒に行ったり、外出と一緒に参加して関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為受診の付き添いははしていただいていない。結果を電話やラインで伝えている。物品の購入も職員が買い物をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外出をして関係を保てるように支援しています。	家族からの連絡を受けた親戚、知人等が面会に来訪している。また、家族との外出にも力を入れ、取り組んでいる。訪問理美容が2～3ヶ月に1回来訪してカットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し孤立しないよう互いに協力し合い尊敬できる関係となるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供をさせていただいたり、入院継続の方のフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで傾聴し把握に努めている。	若干名の利用者がご自分の意向を伝える事が難しい状況であるが、家族からお聞きした情報も参考にして、表情や仕草を見ながら希望を受け止める様に努めている。また、支援の中で気付いた事柄はパソコン内の申し送り一覧表に随時入力するとともに、大切な事柄は申し送りノートに纏めて記載している。申し送り時に確認し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活の中での会話からどのような生活をしてきたか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し一緒に行動することで状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族は日頃の関わりの中で思いや意向を聴き反映している。カンファレンスを行い職員の意見を聞いている。	職員は1～2名の利用者を担当し、居室管理、日々の状況把握等を行うとともに、2ヶ月に1回開かれるカンファレンスの席上で意見を出し合っている。更新時にはケアマネージャーがモニタリングを行い、家族の希望も加味してプランを作成している。入所時は3ヶ月のケアプランを作成し、様子を見て短期目標6カ月のプラン作成に繋げている。状態が安定している場合は長期目標1年での見直し、状態に変化が見られる時には適宜見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に残し職員間で申し送りをを行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じて通院や物品の買い物等柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し地域資源の把握に努めて活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や希望の病院を受診している。基本は職員が代行しているが状況に応じて家族にも来ていただいている。	利用契約時に受診状況をお聞きし、ホームとしての取り組みを説明している。現在は半数の方が入所前からのかかりつけ医を1～2ヶ月に1回受診しており、看護師と職員が付き添っている。他の半数の方はホーム協力医を看護師が付き添って月に1回受診している。週5日勤務の非常勤看護師が1名在籍しており、利用者の健康管理に合わせ医師と連携を図っている。「皮膚科」等の専門医の受診は、職員が付き添っている。歯科は協力歯科医とかかりつけ歯科医の受診で対応している。月1回歯科衛生士の来訪があり、口腔ケアを指導して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。いない時は記録・送りを基に連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い、入院中は医療機関や家族と密に連絡を取り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を踏まえ、出来るだけ家族の希望に添えるよう話し合いを行っている。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明して同意書にサインを頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設けて、家族の意向を確認の上で、協力医と連携を図って、協力医療機関の療養型病棟や法人内の特別養護老人ホームへの住み替えも含めて、ホームとして可能な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応や事故発生時についての話し合いをしている。看護師からの急変時の対応等は都度確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練で水害対策等を含めて対策している。現状地域の方の参加は、感染対策から行っていない。	10月と3月の年2回消防署へ届け出をして、防災訓練を実施している。3月は夜間火災を想定して、消火器を使つての初期消火、夜勤職員の行動確認、通報訓練等を行った。10月は「BCP(業務継続計画)」に基づいて、水害を想定して、利用者を3階の多目的ホールへ誘導しての「垂直避難訓練」を行った。今後、緊急連絡網の確認訓練を予定している。「水」「米」「レトルト食品」「介護用品」等を3日分備蓄しており、消費期限を確認し入れ替えも行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックなど人格の尊重が徹底できず会議で検討会を行ったり職員間で話しあう機会を設けている。	利用者個々のその人らしい暮らしを送って頂く様に心掛けている。そんな中、丁寧な言葉使いを心掛け、行動抑制に繋がる声掛けはしない様に徹底している。苗字を「さん」付けで呼び、同じ苗字の方がいる場合は下の名前でお呼びしている。また、入室の際には「ノック」と「入ります」の声掛けをしている。2ヶ月に1回、職員会議でケアマネジャーが講師となりプライバシー保護に関する研修会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをしたり、希望を確認しながら選べるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが利用者のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の時は自分で服を選んで頂いている。起床時は鏡の前で身だしなみを整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ以降一緒に準備をすることが難しい場面も多くなったが、できる範囲で利用者と職員同士で行っている。	全介助の方が数名いるが、他の利用者は自力で食事が取れる状況である。魚料理と煮物等を増やし、季節感も加味した家庭的な献立を心掛け、職員が調理して提供している。また、沢山のパンを用意して「パンの日」を設け、利用者に好きなパンを味わって頂いている。更に、クリスマスにはケーキ、正月には「おせち料理」を味わっている。利用者は力量に合わせて、野菜の下処理、配膳、下膳、テーブル拭き等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い体調管理に努めている。本人の好みの水分と形態も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科衛生士さんの指導を受け毎食後磨いている。職員の仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入しリズムを把握している。日中はトイレで排泄をしている。	排泄は全介助の方が数名、他の利用者は何らかの介助が必要な状況であるが、トイレでの排泄を心掛けている。起床時、食事前、就寝前の定時の声掛けに加え、排泄表も参考にして、様子を見ながら早めにお誘いしている。排便は看護師と職員が連携を取りながら状況をチェックするとともに、お茶を中心に牛乳、紅茶等で1日1200ccの水分摂取で排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便のリズムを把握を促している。水分補給を促しラジオ体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっている。曜日は決まっているが体調や気分により変更している。	全利用者何らかの介助が必要な状況であるが、週2回入浴を行っている。また、季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。入浴後には水分補給に努めている。当ホームには入浴担当職員がおり、ボディークリームを活用して皮膚の保湿や皮膚病予防に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムで午睡したり安眠できるよう日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに整理し職員が内容を共有できるようにしている。内服時は声に出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中から得意なことを見つけ活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を設けている。	外出時は、自力歩行、シルバーカー使用、歩行器使用、車いす使用の利用者が各々数名の状況である。天気が良い時は3階屋上で外気浴を楽しんだり、家庭菜園の野菜の水やり等を楽しんでいる。昨年5月以降は少しずつ外出レクリエーションも再開し、市内の若里公園までドライブを兼ねて花見や紅葉見物に出かけた。また、月1回の医療受診時には、近くの大型ショッピングセンターで洋服等の買い物を楽しんでいる。今後はコロナの感染状況を見ながら、外出を増やしていきたいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ビデオ通話をしたりお手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間になるように配置を考えている。	当ホームは法人の複合施設内の2階に位置している。十分な広さの共用部分には大きな窓から陽が差し込み、開放感が漂っている。ホールの掲示板には利用者全員の顔写真が名前入りで紹介されている。また、各ユニットに季節の飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染対策の為、直線に並んでいたいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や洋服を持参しこれまでの生活が継続できるよう配慮している。	整理整頓が行き届いた居室は、大き目のクローゼットが完備されている。家族と相談して使い慣れたタンス、椅子、テレビ等が持ち込まれおり、家族の写真やご自分の作品に囲まれて自由な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のわかること出来ることを見極め必要な目印をつけたり、配置に配慮している。		